

令和3年度 第1回学校評議員会議

- 1 日時 令和3年7月16日（金）10：30～11：30
- 2 場所 青森県立弘前中央高等学校 応接室
- 3 参加者
評議員 大学教授、有識者、同窓会役員、後援会理事、PTA会長
学校側 校長、教頭、事務長、教務部副主任、生徒指導部主任、進路指導部主任、記録
- 4 案件
(1) 学校経営方針等の説明
(2) 分掌運営計画等の説明
(3) 質疑応答・意見交換等

5 配付資料

- ・第1回学校評議員会議資料
- ・新聞記事＜令和3年2月～令和3年7月＞
- ・学校要覧
- ・学校案内
- ・学校経営方針【校長：資料】
- ・進路参考資料

6 会議録

【1】校長挨拶

教頭：校長より挨拶をいただきます。

校長：本日はお忙しい中、学校評議員会に出席いただきまして誠にありがとうございます。昨年度来のコロナ禍において、今年度も文化祭を外部の方々を入れない形で実施している状況である。それでも昨年度と異なり、生徒が活動できる場がかなり確保された状況にあり、本校の生徒達も春季大会や高校総体においてとても素晴らしい成果を挙げている。後ほど詳しい話をするが、その生徒達の活躍により我々教職員も励まされているような状況である。本日は学校評議員の皆様より、本校の教育活動等に対しまして、様々なご意見等を賜ればと思いますのでよろしくお願ひします。

次第

【2】案件

(1) 学校経営方針等の説明（校長）

校長：令和3年度学校経営方針および弘前中央高校の校訓・教育目標と身に付けさせたい力という資料があるかと思ひます。昨年に引き続きまして校訓に基づいた様々な力の育成に力を入れていただいた中で、継続的な学習活動を行っている。昨年はコロナ禍の中、どのような状況に学校がなるのか大変不安な時期もあった。その中で生徒も頑張り、また本校の教職員が非常に臨機応変に対応し生徒の進路をしっかりと確保することができた。校長として大変ほっとしたことであった。今年度もそれに引き続いてしっかりと対応していきたい。幸いなことに、今年度は、春季大

会から全県的な大会が無観客ということもあり応援には行くことができなかったが、その中で生徒達が素晴らしい成績を残している。現在校長室に3本の優勝旗がある。近年3本の優勝旗が本校にあるということは無かったことである。また、昨年は県高総文祭で自然科学部が、最優秀賞を獲得し今月末に和歌山県で開催される全国高総文祭に出場を決めている。また、放送部もラジオ作品の制作部門で全国大会への出品を決めており、結果として5つの部が全国大会への切符を手に入れている。そのおかげもあり学校として大変盛り上がっている。やはり昨年、3年生の悔しい姿を見ていた生徒達が、今年こそはという気持ちで頑張ってくれた成果がでたのではないかと考えている。本校の良さは、生徒の素直でひたむきな姿勢が弘中央生のモットーであると私自身感じており、このような生徒達の良さをより一層引き出しながらさらに本校を躍進させていきたいと思っており、評議員の皆様方から、様々なご意見やご指摘をいただければ、今後の学校経営に活かしていきたいと考えており、忌憚のない意見をいただければと思う。

教頭：資料の1ページから4ページについて補足したい。1ページ目は、評議員の皆様のお名前と学校からの出席者の名簿になる。2ページ目は今年度の運営計画である。学校評議員会は年に2回行われることになっており、今回は2月を予定している。3ページ目は学校評議員会の活動計画であり、4ページ目は、青森県立学校管理規則を載せてあり、評議員の皆様におかれましてはよくご存じかと思うので説明については割愛したい。

(2) 分掌運営計画等の説明（教務）

教務部副主任：5ページ2指導目標をご覧ください。（1）主体的・対話的で深い学びにつながる授業の推進（2）研修体制の充実（3）円滑な校務運営を挙げている。2指導目標を実現させるための具体的な対策を3として挙げている。（1）ア授業は極力自習を無くし、授業時間の確保に努めている。（1）イ現在これから生徒に一人一台のタブレット端末が配付できる見込みである。ICT機器を活用して授業を改善していくよう各教科と連携している。（1）ウ総合的な探究の時間について、探究プロジェクトというチームと連携して円滑にできるように行っている。（2）ア研修体制について、教員が研修を十分に行うためにも、教員の申し出に対して授業変更を行っている。（2）イ各教科が年に1度は研究授業を開き、指導力の向上を図りたいと考えている。（2）ウ生徒がタブレット端末を使用して授業を受けるにあたり、先生方の研修も必要であり、ICT活用のための校内研修を行っている。現時点では、ロイロノートの使用法に関する研修が実施済みである。（3）ア教務部としては、各分掌と連携し情報共有しながら業務に当たっている。（3）イ生徒が部活動を活発に行えるように、各学年との連携に努めている。（3）ウ来年度入学してくる生徒が新学習指導要領での指導を行う対象学年となる。それに向けて新しい教育課程を先月に確定させた。（3）エ新学習指導要領での指導を行う学年の入学を機に全ての県立高校で統合型校務支援システムを導入することになった。それに向けての準備をすすめている。（3）オ奨学金の給付を希望する生徒が増加している。現時点で、学生支援機構の予約奨学生を希望している生徒が131名いる。（3）キ公開授業については、昨年度も計画はしたが実施はできず、今年度についても4月と10月に実施の予定ではあるが、今年度も4月については実施できなかった。この10月も実施できるようにコロナ禍の環境が改善されることを願っている状況にある。

(2) 分掌運営計画等の説明（生指）

生徒指導部主任：1 基本方針については資料の通りである。2 指導目標については4つ掲げている。

(1) 高校生として基本的な生活習慣を確立させる。また、自立心や品性を高めることを目標とする。これに対する留意点及び具体策として、(1) ア毎朝声掛けをし、全教員に協力を求めている。また、そのための日程を組んでいる。駐輪場や教室などの状態は、公共マナーが守られている状態にあると考える。生徒もプライドを持って、品性の向上を目指してその状況に従っている。状況としてはまずまずのところにあると考える。(2) カウンセリングマインドによる個に応じた教育相談を通して生徒との信頼関係を構築し、諸問題の未然防止を図るとともに、早期発見・早期対応に努めている。(2) ア心理検査アセスを年2回、学校生活アンケートを年2回実施している。その結果をもとに教師が一堂に会して生徒理解研修を行っている。個別の事案において必要な際には、教育相談委員会を開き各担当教員で業務を分担することになっている。なお、ここ2年については教育相談委員会を開いていない。(2) イいじめ防止専門委員やスクールカウンセラーから助言をもらいながら、いじめの未然防止や早期発見・早期対応のための体制を組んでいる。(3) 安全で安心できる学校環境を確立する。

(3) ア生徒指導協議会が2ヶ月に一度中南の学校で行われている。警察や自動車学校と情報交換をして事故の未然防止に努めている。(3) イ盗難防止については、何年か前には数件発生しているようなこともあったが、ここ3～4年については発生していない状況にある。自転車の施錠などについても生徒はしっかり行っている。(3) ウSNSにおけるさまざまな情報については、ネット上にアップしないように強く指導している。昨年度のこの場においても話をしたが、総合的な探究の時間にその必要性からスマートフォンの利用を認めているが、目的以外の使用をしている生徒も見られ、注視しながら学習へ向かわせるようにしたい。(3) エ関係各所から様々な感染対策の指針や注意喚起が出される状況にある。それらを適切に理解しながら、気をつけて遠征等を行わせるようにしている。(4) 校長の学校経営方針にある8つの力、校訓、教育目標などがあるが、生徒指導部としては、部活動、生徒会活動、ボランティア活動を頑張らせて、ホームルームや学校行事で良い人間関係を構築し、人間性を育みたい。それらを一層充実させるために、学校行事をとおして集団の中で役割と責任を認識させ、個人の自己有用感を実感させたい。本校の生徒会は自律して、自主性を持って活動しているので、そういった伝統的に良い面を伸ばしていきたい。部活動の参加を推進しているが、学習との両立で悩む生徒もおり、生徒の個に応じた対処をしていきたい。(4) エ現在コロナ禍にあることから部活動においてできることとできないことが出てきているが、与えられた予算を生徒に還元できるようにさまざま配慮をしている。

教頭：資料7ページから10ページについては、今年度の部活動の記録が載せてありますので、ご覧おき下さい。

(2) 分掌運営計画等の説明（進路）

進路指導部主任：1 基本方針については、教員が連携することにより、生徒の能力や適性をしっかりと伸ばしていくとともに、主体的な進路選択すなわち生徒自身が自らの進路選択を考慮することができるような大人に成長させることである。2 (1) 教員間の連携を図るなかで、計画的・継続的に行うことを大事にしたい。2 (2) 就職に関わる教育ということではなく、進学後の

人生としてのキャリアをどう積み重ねていくのかを授業以外のところで行っている。2 (3) 進路講話や進路講演会では、生徒はもちろん保護者についても進路についての学習をしていただいて、生徒の進路決定に上手に協力していただけるような情報提供を実施する。2 (4) 大学入試も含めて進路の情報は毎年変わっていくので、情報収集をしっかり行い、生徒・保護者に情報提供を行う。3 (1) ア身に付けさせたい8つの力を意識することと教務からもあった通り、ICT機器の活用は、これからの学校では避けては通れないこともあり、校内における連携や指導の改善を進め生徒を伸ばしていきたい。3 (1) ウまずは授業第一を掲げながら日々の積み重ねが大切であり、その上でさらに学習指導体制を整える。3 (2) ア職業人講話・進路講演会・模擬講義等を各学年の状況に応じて、それぞれの狙いを持って講演会等を行っている。3 (3) ウ総合型選抜・学校推薦型選抜など入試の方法が毎年変化し、それを生徒・教員ともに理解していきながら助言していくことをしっかりやっていきたい。3 (4) アイ情報及び資料の整備をしっかり行い、生徒・教員が使いやすい状況を作る。12ページの上段の資料/県内3大学および県外国公立大学の合格者の推移について、R2年度は過去5年間の中では比較的良い結果となっている。12ページの下段の資料/現3年の進路志望状況について、就職・公務員が0人で、例年通り国公立大学への志望が多くなっている。やはり弘前大学への志望が多くなっている。13ページの記載内容は、進路参考資料に詳細な情報がありそれを簡単にしたものである。1 進学状況については、合格者の人数と進学者の人数は多少異なります。2 大学合格状況/弘前大学および近隣大学合格状況について、カッコの内部の数字は総合型・学校推薦型での合格者の内数を示し、各大学では総合型・学校推薦型の募集人員を全募集人員の3割を目標に大学改革をおこなっており、本校における結果もその状況を表すような結果となってきているのが見て取れる。今年度の受験結果の詳細については、進路参考資料をご覧くださいと思う。

(3) 質疑応答・意見交換等

教頭：皆様から質問等があればよろしくお願いします。

同窓会役員：教務のところではICT活用についての取り組みが出てきた。現在、教員採用試験の中でも、特に北海道なんかでは、ICT機器をどれくらい活用できるかを今年から自己PR書に書くようになった。個人面接の中でも、どの教科でどのように活用するのが効果的かという質問が面接で出てきている。教科にもよると思うが、いま全員がタブレット端末を持って授業を実施していくことになる。ICT機器の利用にはメリットとデメリットの両方が考えられ、学生達と話をしたところ単に使いえれば良いというわけではないという話になった。学生達から出た意見は、全員がタブレット端末を使うことにより、各人の意見を集計することが早くなるということであった。教員でも生徒でも「皆さんどう考えますか？」という話題に対して、一斉に考えを打ち込むと、これまで教員が挙手させたり、「君はどう考える？」などと聞いていたことが、タブレット端末を使うことで時短になる。それと、アクティブラーニング・グループを作って行う学習活動でタブレット端末を活用すると各自の意見や各自の解法をグループに持ち寄り、その代表意見を全体で共有するために映し出すことができるというメリットがある。これまで各自の意見をマグネットシートに書いてそれぞれが説明したりということも不要で、大学の授業の中では使用しているが、実物投影機は常に使い易いのでその代わりに使える。また、大学では生徒全員がパソコンを所有しているので、パソコンかスマートフォンを用いて意見交流をして、また新型コロナウ

イルスへの感染対策もあるので、講義の中でも教員採用試験などで不在となる学生がいてもリモートで講義に参加して、7人中2人がオンラインでの参加という講義を実際に行っている。弘前中央高校では、ロイロノートまでは研修を行っていると同ったが、実際いま現在授業で何か活用されていることとかあるのでしょうか。

教務部副主任：使用されている先生方お願いします。

生徒指導部主任：まだ、生徒用の機器の準備ができていないので、ロイロノートは使用していない。

教務部副主任：生徒用の i-pad はまだ支給されていない。学校には i-pad が 80 台来ているが、生徒に使用させるには至っていない。今年度中に生徒に 1 人 1 台渡せるようになる予定だ。来年度には生徒が 1 人 1 台使えるような準備が整うと思われるので、そのために先生方が色々準備をしているところである。

同窓会役員：ICT機器の使用は便利なところもあるが、どのような活用方法を考えていますでしょうか。

進路指導部主任：私の指導教科は物理であるが、i-pad を用いて教科書を取り込み、それを映しだし、i-pad 上の資料に直接書き込みを行い説明するので、一つの利点として板書のスピードが上がる利点がある。また、図表がキレイなので生徒にとって分かりやすいものを提示できる。動画をあわせて見ることにより、実験の結果は教科書では止まっているものしか見られないが、動いているものを元に説明ができる利点がある。グラフなども手書きで色を変えて提示したり、生徒にそれに描いてもらうなりすることができる。書き上げてしまったものを配付しても、試行錯誤の過程がわからないことから、その試行錯誤の過程を見せるという利点がある。英語や国語などの科目では文章を板書する手間が省ける。

生徒指導部主任：私は surface を用いて授業をしている。Pdf ファイルに直接書き込みをしてそれをスクリーンに映し出している。生徒を指名するときに 4 5 人いたとすればその 4 5 人を重複なくランダムに当てる順番を出させたり、ペアワークなどをさせるとき生徒の組合せがそのつど変わるように 4 パターン用意している。そのことによって苦手な相手とずっとペアになることがないように工夫している。英文の解説は黒板に板書すると時間がかかってしまうことから、あらかじめ重点項目は赤や青などで書いておいてスクロールして説明して、すぐにペアワークで読み合わせすることができるようにしている。そのことによって時間を短縮させることができる。現時点では生徒はまだ機器を使用できる状態にはないが、教員が重宝する形で利用を進めている。また、本校ではプロジェクタに簡単に接続させて見せられる環境が整っている。無線で映像を飛ばすこともでき、持ちながら机間巡視などもでき使い勝手が良くなってきている。

同窓会役員：先生方の準備が大変なのではないですか。

生徒指導部主任：ランダムに当てさせるシステムは一度作ってしまえば、その後の授業時に利用でき、Pdf ファイルへの書き込みについても、持っているクラスが 3 クラスあるなら全てのクラスで利用できるので一旦準備してしまえばその後が楽になるという面がある。

同窓会役員：生徒側にとってはそれがどのような利点になっているか。

生徒指導部主任：教員が黒板に板書している間がないので、早く構文を理解したい生徒にとっては良いと思う。ただ思考に時間がかかる生徒にとっては、教員が黒板に板書をするような間があったほうがよいと考える生徒もいるとは思いますが、現在英文の学習では、復元するリプロダクションが重視されているので文法構造の説明に時間を掛けるよりは、早く生徒に練習をさせたいという気持ちがある。解説をできるだけ手短に行い早く声に出して音読させ暗唱させるのが狙いなのでそ

の問題解説の手間が省けるところがやはり利点となっていると思う。

同窓会役員：ありがとうございます。

進路指導部主任：数学でもグラフを書くのに使っていますよね。

教務部記録：はい。グラフを提示するときにキレイなものを提示でき、i-pad のカメラを使って生徒のノートに書かれているものをカメラで撮りそれをスクリーンに映して他の生徒に提示することもできるので、そういう点でも機器を用いるのは便利である。

進路指導部主任：生徒が1人1台機器を持つようになると、生徒が自分の i-pad で書き入れた解答を教員が全体に提示し、投影しながら説明したり、個人個人の端末に映したりできるようになるわけだが、まだ先生方のものを映しだして生徒に説明している状態である。ただし、気をつけないといけないのは、メリット・デメリットがあって、分かりやすく伝えられるとか、動画を使った説明ができた、時間短縮ができた、とメリットもあるが、実は生徒が書いたり考えたりする時間も必要で、現在の入試自体もコンピュータを利用して解くわけではないので、自分で図を書いて、立式して、計算して答えを導くためには自分の頭と手を動かす必要があり、代ゼミ総研の意見だとICTを活用すると計算などにおける生徒のタフさみたいなもの、例えば泥臭く計算し続ける力が落ちてしまうようだ。そのため、単に使えるからそれでいいということではなく、一段階進めないと泥臭く計算することができない甘えた生徒を作りかねない。そのあたりが我々の課題になってくるのではないかと予想している。上手く指導していくためには2～3年の時間を要する気がする。ICT機器を上手に使いながらメリットを活かしつつ生徒の力を伸ばすという工夫を我々がしていく必要がある。

教頭：他に発言がございますか。

後援会理事：今日学校に来たときに、また生徒の皆さんの様子をうかがっていると、やはり挨拶をしてきてくれる生徒の数が少ない印象を受けました。それでどうしようかと思い、こちらの方から挨拶ハラスメントではないが、無理矢理挨拶を強要するような雰囲気を出しながらここに来ました。2～3人の生徒は生徒の方から挨拶をしてくれました。その挨拶をしてくれた生徒の立ち姿なんかを見ていると、この生徒は挨拶をしてきてくれる生徒だなという雰囲気を持った立ち姿であった。これまで生徒の様子を眺めてきたが、年々挨拶を積極的にしてくれる生徒が減ってきている感じを受ける。

私が保護者として本校に関わっていたときのことをもとに話をしたい。奨学金の説明会が3年生のときのPTAの研修事業か何かであると思うが、その1回きりだと保護者の立場では理解できない感じで、私自身は他校の保護者としての経験もあり聞いたことがある話だったので2回目ということでスッと理解することができた。周りの保護者の中には、何、何、という感じでまるっきりわかってない雰囲気の保護者もいるようだった。そのため1年生の入学当初のときとか、2年生のどこかのタイミングで奨学金の話を聞いておけば3年生のときにスッと理解できるのではないかと思った。もう一つは自分の娘の話になる。自分の娘はあまり積極的な子どもではなかった。いざ進学をする段階になったとき、進路指導部に行き先生と話をして情報を持って来るように言って聞かせたが、そういうことができない子であった。そこで思ったのが、担任の先生方によって持っている情報量の差が大きいということであった。そのため進路を決定することが大変であった。その際、部活動の顧問の先生が親身になって子どもの進路相談をしてくれた。子どもも高校生にもなると、親の意見に必ず従ってくれるわけでもなく、うちの子どものような子にも積極的に声かけをしていただいで誰一人取り残すことなく指導し

て欲しい。上手く進路指導していただければいいのかなと思った。そろそろ今年度の進路希望をすすめていく時期でもある。

教頭：ありがとうございます。色々検討していけばいいですね。奨学金の説明なんかもそうですね。

大学教授：今の奨学金のことにに関してなんですが、大学からの連絡が保護者の方に十分理解されていなくて、学生自身が困ってしまうということが結構あって、使えるものが十分に使われていなかったりという国の制度の部分があり、力のある生徒も多いことから是非情報を早めに広報していただければと思います。

有識者：スクールソーシャルワーカーをしているので聞きたいのですが、弘前中央高校の生徒で不登校の生徒はいますか。

教務部副主任：います。

有識者：一人とか二人ですか。

生徒指導部主任：はい。

有識者：何年生ですか。

生徒指導部主任：3年生です。

有識者：進路の悩みとかですか。

生徒指導部主任：先ほどのいじめ防止委員会でお話をさせていただいた生徒です。

有識者：弘前中央高校では、貧困な家庭への対策について何かしていますか。子どもの貧困対策についてです。

生徒指導部主任：今の1学年で、いままでアルバイトを本校では認めてこなかったが、1人だけスーパーのバックヤードなんかで仕事をさせて欲しいという申し出が出ており、それについて生徒指導部では許可する方向で検討をしている。

有識者：貧困のためにご飯を食べていない生徒や、親が失職していてというのも出てきている。気をつけてみていただきたい。尾上総合高校は特に比率が高いとは思いますが、尾上総合高校ではカロリーメイトを準備してあげているとか、1食しか食べていない女子生徒がこの前いた。中央高校では、みんなが進学に向かっていようだが、家庭の家計が苦しくてというところもあるのではないかな。私は、週に1回ほど法テラスに行って相談を受けている。その中で奨学金の自己破産の相談の話が多く、中央高校では借りることの説明はしているとは思いますが、借金であるということをしっかり理解させて借りさせるということにどう取り組むべきなのか考えて欲しい。別の進学校に派遣で行ったときに、ある生徒が東京の専門学校に進学することになって、奨学金をもらって進学するのだが、自校の奨学金なのでその学校の試験を受けねばならず、その試験がどんな問題かわからずに心配で学校に行けないということであった。おそらくその奨学金は受けられるはずだが、半分が給付で半分が貸与なので、3～5年を東京で一人暮らしをするのであれば貸与金額もそれなりになり、それが借金になるんだという認識を生徒や保護者に身に付けさせることは今のテーマになっていると思う。法テラスでの相談においても、コロナで具体的に相談ということではないが、借金の相談が増えている。6月は相談件数も多く、電話による問い合わせの件数も多かった。昨日、愛生会病院の院長とお話をする機会があり、院長からは自殺者が増えているという話を聞いた。秋田県と青森県が上位になることが多いのだが、今年は青森県が秋田県よりも多くなるのではないかとのお話をされていた。貧困や奨学金破産や自殺者増加の問題がすべて同じ禍根なのではないかと感じている。中央高校から弘前大学へ進学する場合は余り問題にな

らないが、奨学金を借りて県外の大学へ進学する子どもへの教育をどうしていくのかも考える必要があるのではないか。真面目な生徒ほどその真面目さが故に問題に追い詰められてしまうこともあるので、その辺りが心配な点だなと思った。

あと、ジェンダーの問題については、弘前中央高校ではどうしてますか。例えば、尾上総合高校は何をしても最先端の学校なので、スラックスを履きたいという女子生徒が出てきました。

生徒指導部主任：弘前中央高校ではないですね。

有識者：尾上総合高校では、スラックスを履きたいという女子生徒が何年か前から出てきていて、そういう生徒に男子のスラックスを履かせるわけにはいかず、制服の問題は学校の問題なので、学校で取り組んで下さいと学校に相談を返したこともある。女子生徒がスラックスを履きたいというのもジェンダーの今時の問題なのでそういう視点の問題も考えておくべきではと思う。

生徒指導部主任：先日も生徒指導協議会でその話が出ており、スラックスを履かせたケースもある。

ただし、トイレに関しては学校としては対応しなかった。

有識者：学校現場に話題として出てはいるんですね。

生徒指導部主任：他校、他県ではあると思います。

有識者：今の社会では「おねえ」とか「おかま」とかいう言葉を使うのは駄目で、ある学校で年齢の高い先生達が「おとこ女」としゃべったらしいという話が聞こえてきた。その辺りのことを教員の方々は考えを改める必要がありますよね。

教頭：私も二つ前の勤務校での女子生徒で、スカート履きたくないという生徒がいて、ジャージを履かせて欲しいということであった。学校側としては、儀式的な行事では制服を着させ、それ以外はジャージでもよいという対応をした。

有識者：今はそういう生徒もやっぱりいるんですね。昨今そういうことを言われても大丈夫なような準備が必要かもしれませんね。

教頭：他にありますか。

同窓会役員：先ほどジェンダー・LGBTその他の生徒の話題が出ましたが、発達障害を持っている生徒も必ずクラスに存在すると考えられる。そういう生徒にどのような配慮をしているのかについても話題になっている。授業において、例えば小学校であれば、その生徒への配慮なのか、その生徒を特別扱いしてしまっているのかという判断が紛らわしいというか、教員がその子に対して配慮していることが、周囲の子どもから見るとその子に対する特別扱いをしているように映り、それがその子に対するいじめにつながることもある。もしも自分のクラスにそのような生徒がいたとき、どんな配慮をするかと考えたとき、発達障害にも様々あるのでインクルーシブというよりはユニバーサルデザインの考え方があった方がよいのでは、ともすれば特別扱いをしている子と教員のサインに対してその場にいたくなる生徒もいる。そのような対応を必要とする生徒が高校に進学するといなくなってしまうということは考えられないと思う。大学に来ている学生達の中にも、成績は大丈夫だが、いざ社会に出て働くようになったときに苦勞するのではないかなという学生がいる。先ほど、中央高校では授業が基本であるとおっしゃっていて、その通りだと思い聞いていたが、中央高校では何か特別な配慮が必要とされるような生徒はいるものでしょうか。

生徒指導部主任：はい、おります。ペアワークができない生徒もいる。担任の先生からそのような申し出がある生徒がいる。そういう中でも、最近調子がいいからペアワークができるといった生徒も中にはいる。授業中に当てても答えないとか、声が小さくこちらで聞き取れないような声し

か出さないような生徒がいる。

教頭：他にありませんか。

P T A 会長：今年初めて登校指導に携わった。自転車の乗り方について、現場に出て指導する機会があった。生徒は、学校の先生方の指示に従い、交通ルールを守っているのに対して、一般の方々の中には、通行区分を守らずに自転車を運転する方がおり、そういう点で自転車指導の難しさが分かった。

教頭：十分な議論がされたかと思います。今日話し合われたことを、今後の活動に生かしていきたいと思います。

【3】校長謝辞

本日は長時間にわたり大変ありがたいご指摘をいただいた。奨学金への生徒の理解についてだが、生徒へも保護者へも複数回説明しないとご理解いただけないことかと思われるので、この件につきましては早急に回数を増やすなり、あるいはc l a s s i等で奨学金の制度を公開しながら理解の増幅に努めたい。来年度から18歳での成年年齢制度がスタートするので、奨学金の契約も本人の意思に基づいてということになってくると思われる。その点も含めて速急に対応していきたい。貧困対策、ジェンダー対応についても避けて通れない課題だと思っているので教職員間の連携を密にしながら、生徒の変化を捉えられるように対応していきたい。また、I C T機器の活用については、本校の教員は苦勞していると思う。私の方からは、今年度についてはまず楽しんでタブレット等の操作を覚えてくれということをお願いしている。これから進学してくる生徒は、小学校、中学校でそのような機器を用いた学習環境を経験してくるので、我々教職員よりタブレット端末等の機器の扱いが上手かも知れない。ですから、教職員のスキル向上が今年度の課題であるとして対応してもらっている。先日、千葉県で小学生5人が亡くなったことで、文部科学省の方から通学路の安全点検を行うように文書が通知された。本校の前の道路は、朝の通学時間帯では、生徒の自転車の交通量も多く、その近くを一般の自動車が速い速度で運転されている状況にあり、我々も大変その点には気を遣っている。何かおこってしまってからでは遅いので、日々生徒に注意喚起をほどこしながら、我々が気づける分を見落とさないように気を配って参りたい。現在のコロナ禍の中、想定されていないことが起こる可能性がある。そのため、評議員の皆様からいただいた様々なご意見をもとに、今後の教育活動に活かしてまいりたいと思いますので、今後とも本校に様々な場面でご意見等賜ればと思う。本日は誠にありがとうございました。